

第 2 回
旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会

検 討 資 料

平成 28 年 3 月 1 日

パシフィックコンサルタンツ株式会社

旧笹川家住宅保存活用計画策定の背景と必要性

- 背景
 - ・新潟市では、イベント、講座等の実施、水と土の芸術祭の作品展示の場の提供など、さまざまな試みを行ってきたが、入館者の逡減傾向が続いており、施設は大規模な修繕を考えなければならない時期を迎えている。
 - ・平成 26 年度に、味方地区を中心とした有志の実行委員会による、「笹川邸魅力再発見プロジェクト」の「提言書」がまとめられた。
- 必要性
 - ・屋敷をはじめ、複数の蔵などは建築から約 190 年を経過しており、中長期的な改修計画の策定が求められている。
 - ・隣接している曾我・平澤記念館と空地も活用し、施設の魅力を向上して来館者の増加や地域の活性化に繋げる。

I 上位関連計画におけるまちづくりの中での「旧笹川家住宅」の役割

- 1 「にいがた未来ビジョン」
 - ・地域の個性を活かしたまちづくりを進め、まちなかの活性化につなげる。
 - ・地域の個性の魅力を内外に発信、地域間の連携を強化することで、都市全体の大きな魅力につなげ、交流人口の拡大を図る。
- 2 「南区区ビジョンまちづくり計画」
 - ・白根大風合戦、旧笹川家住宅、角兵衛獅子など、地域固有の文化施設や伝統行事などの魅力を内外に発信し、認知してもらおうとともに、地域の伝統文化を守り育てるための地域活動を支援する。
 - ・地域の歴史や文化を象徴する文化資源を地域の宝物として認知度を高め、保全と活用を図る。
- 3 「都市計画基本方針」
 - ・地域固有の歴史文化を発掘、継承し、地元学・地域学の活動を支援する。
 - ・屋敷林の保全を図ることにより、集落と田園、河川等が調和した景観形成を進める。
- 4 「生涯学習推進基本計画」
 - ・自分の住む地域の歴史、文化、風土などの魅力を見つめ直し、再発見する地域学・地元学を充実する。
 - ・学校教育と社会教育、地域住民などが一体となって地域づくりを進める。

他の地域資源との連携により、新潟市全体の魅力アップ、交流人口の拡大を図る。

地域の歴史を学び、固有の魅力を再発見し、地域づくりを進める。

II 重要文化財としての価値と関連する歴史的特徴

- 1 旧笹川家住宅の重要文化財としての価値（重要文化財指定時説明文）
 - ・笹川家は治門源頼勝の代に長野県で水内郡柳原村大字笹川より現地に移住し、代々庄屋を勤めた家柄である。
 - ・今の住居は文政 9 年に再建されたものである。（表門、土蔵、表座敷、茶の間、住居、台所など）。屋敷の周囲に塙を繞らし、巽に表門を備え、表門を入った正面に表座敷があり、その奥廊下を隔てて茶の間、住居がある。
 - ・その広大な屋敷と壮大な建物は江戸時代大庄屋の権力とその資力を遺憾なく示している。
 - ・表座敷は庄屋時代の庁舎に当るもので、本玄関、脇玄関、広間、上段間、次の間などの室を西南方にとり、土間と台所を設けている。上段間に床、棚、書院を設け、玄関広間に大床がある。
 - ・また、脇玄関と台所土間出入口との間に突出して浴室を設けているのは珍しい。
 - ・茶の間には炉を切り神棚を設けこれに続いて西南に床のついた小客室がある。茶の間の裏に続いて延びた住居が更に西南に曲折して住居を設け、住居の西南端より前に折曲って佛間がある。住居の一部に中二階を設けその階段に引き出しがついている。また住居の一部が二階造となっているが、この二階は明治末期に附加されたもので当初は全部平屋建である。
- 2 旧笹川家住宅に関連する歴史的特徴
 - ・安土桃山時代の天正 9 年（1581）に移住した笹川家は、江戸時代の慶安 2 年（1649）から万延元年（1860）まで 200 年以上にわたり、村上藩の飛地領である四万石領の味方組 8 村の大庄屋を務めた。
 - ・平野部で米がたくさんとれた四万石領は、村上藩の財政を支えた存在であり、その中であって、味方組は 9,000～11,000 石の生産高を上げていた。
 - ・旧笹川家住宅をはじめ、近世・近代の物・人の運搬は、中ノ口川の舟運が欠かせないものとなっており、阿賀野川の会津や、新潟湊を経由して江戸・大阪などにもつながっていた。
 - ・一方、江戸時代から昭和まで味方村一帯は中ノ口川の水害対策をはじめ、用排水改良、土地改良を行う中で、米づくりを維持してきた。

III 現地調査等による旧笹川家住宅の特徴と現状の問題点

【保存管理計画分野】

- (1) 旧笹川家住宅の特徴（仕様調査等）
 - ・旧笹川家住宅は、居室部の 2 階部分を除き、近代以降大幅な改造が行われておらず、雑倉では建築当初の状態に復原修理されているなど、表門から表座敷や居室部、後背の土蔵群等、大庄屋としての暮らしぶりを伝える建物群が一体的となって、江戸時代の大庄屋役宅、住まいとしての仕様をよく残している。
 - ・一方で、江戸時代における大庄屋・庄屋としての暮らしぶりや近代における豪農としての暮らしぶりを伝える古文書や民具類、建物の普請等に関する古文書があまり無いことから、建物以外の展示資料が少ない状況にあり、より詳細な当時の暮らしぶりを伝えるためには、類似事例等から関連情報を整理する必要がある。
- (2) これまでの修理履歴と破損状況、問題点（破損調査・修理履歴調査）
 - ・これまでの主な修理の要因としては、経年劣化に伴う屋根材の葺替えや壁の補修、台風・強風等による建物周辺の樹木の倒壊による建物破損の補修、虫害・腐朽に対応した床組の補修、地震災害による土壁の亀裂等の補修がある。
 - ・破損調査（目視調査）から、現状では過去に修理された小屋組や床組、軸部に大きな破損は見られないが、表座敷では、屋根の雨漏りを要因とする土壁への雨染み、軒先の腐朽・白カビが発生している箇所が数カ所確認された。
 - ・特に、大正元年に増築された居室部 2 階部分では軸部全体に歪みが生じている他、屋根の雨漏りを要因とする天井板への雨染み、畳の一部腐朽等が確認されており、大梁を補強するなどの大規模修理が必要と考えられる。
 - ・その他、土蔵群は漆喰壁のひび割れが数カ所あり、雑倉では雨漏りをしている痕跡がある。
 - ・表門北方屋根板塀、裏門はそれぞれ敷地内側に倒れている。



・廊下境小壁に雨水による水染みが見られる。軽微な雨漏れと考えられるが、点検、修理が必要（表座敷家老の間）



・居室部 2 階全体の不陸による建具の開閉の困難



・居室部 2 階座敷天井の雨染み、畳にも雨染みあり

- (3) 旧笹川家住宅の管理状況と問題点
 - ・敷地内に来館者用屋外便所を除き、文化財に指定されていない建物がないことから、外回りの道具が、雑倉、文庫、外便所に、屋内用の道具が物置、酒部屋に保管されるなど、公開されていない区画がある。
 - ・施設の面積、建物の大きさに対して施設職員数が少なく、管理作業と来館者への対応が重なり、維持管理作業が大変な場合もある。
 - ・国の重要文化財であるため、一般施設の管理と異なり、取り扱いが難しく特別な手続きが多いが、専門職員がいない。

【環境保全計画分野】

(1) 旧笹川家住宅の屋敷林や庭の特徴

- ・屋敷周りは水路で囲われ、東西約 140m、南北約 85m の敷地外周に幅 3m 程度の土塁が築かれ、樹高 5～25m 程度の自然木で囲まれ鬱蒼とした様相を呈している。このまとまった屋敷林は、田園環境の中で中ノ口川沿いのランドマークとなっている。
- ・茅葺きの表門を入ると、表玄関に延びる広々とした前庭があり、庭門を入ると東西約 27m、南北約 16m の池があり、廻遊ができるようになっている。護岸石組みも目立たず、自然風なたたずまいを見せている。表座敷の居室前の庭は緩やかな起伏をつけ、景石を配し、六角形石燈籠を点景として、技巧をこらさず趣のある庭となっている。

(2) 屋敷林の現状と問題点（樹木調査）

- ・樹木本数は 958 本・株となっており、平成 19 年度調査時よりも 100 本・株の増加となっている。樹種ではスギ、ケヤキ、ヤブツバキ、ヤマモミジが多く、特にヤブツバキ、ヤマモミジの増加が著しい。樹冠が重なり合い密集している箇所がほとんどとなっている。
- ・実生や外から入ってきた自然木がそのまま成長し、南側を除き、池まわりも含めかなり過密な状態になっている。他の木との競合や被圧が見られ、水路に傾いている樹木も見られる。林床も実生植物が数多く確認されている。また、居室部南側のアカマツが倒木の可能性がある。

(3) 庭園の現状と問題点（庭園調査）

- ・既存の過去資料や聞き取り調査からは、居室部南側に池や茶室があったとされているが、現状では痕跡が不明である。灯籠 2 基は鎌倉時代のものと言われているが、特定できていない。庭石には、北前船によって運ばれたと推測される紀州石や海石があったり、会津の野沢石などがあることから、時代を推測する手がかりは残されている。
- ・作庭年代や作庭手法が不明であり、茶室や別の池の存在も推定される。また、銅板屋根の影響による前庭の苔の枯死、雨落ち部の不備、前庭の敷石の劣化などが現状の問題点となっている。

(4) 水路の現状と問題点（水路調査）

- ・水路は平成 22 年度に改修・浚渫工事が行われたが、渠底高から自然勾配で流れるようにはなっておらず、常に停滞し、オーバーフロー分のみが流れる構造となっている。
- ・過去資料によると外堀の堀に連絡した水路状のもので荷揚げする、「舟江堀」と推測されるものがあるが、調査はされていない。

【防災計画分野】

(1) 防火対策・防犯対策の現状と問題点

- ・消防法に従って、火災警報設備、消火設備が設置されている。
- ・防火体制（責任者と指令系統）、防災備蓄、備品、訓練体系のマニュアルについては作成中である。
- ・旧笹川家内部については、昼間・夜間とも人的対応が基本となっている。（夜間は職員 1 名体制で宿直）
- ・監視カメラを設置すると景観が損なわれるという意見があり、人的対応に頼っている。
- ・夜間・休日の危機管理体制は整備されている。

(2) 耐震対策の現状と問題点

- ・重要文化財（建造物）耐震診断指針の所有者診断において、すべての項目で 60 点以上であり、重要文化財が構造的に健全であると判定されている。

(3) その他設備の現状と問題点

- ・管理室には、防災盤が設置され、冷暖房が整備されている。
- ・一部改修はされているが、村に移管された当時の設備のままとなっている。
- ・ガス設備が中廊下に配置されており美観的によくはない状況となっている。

【活用計画分野】

(1) これまでの活用状況と問題点

- ・地域の伝統芸能やイベントの会場としても活用されているが、あくまで公開（見学）を主として運営を行っており、貸室としての活用は行っていない。来館者数は減少傾向にある。
- ・旧味方村時代は部屋名称のサインしかなかったことから、南区役所の方針で平成 22 年度にサインを一新したが、説明用の案内板等は少ない。
- ・既存の照明も照度が低いことから、曇天、雨天時の室内は暗い状況にある。
- ・全般的に笹川家ゆかりの展示品が少ないことから、かつての暮らしぶりの再現、説明が困難な状況にある。
- ・旧味方村から移管された時点で展示されていた民具（地元住民からの寄贈品）等の展示物を含めて、全般的に、なにを展示し、伝えるのかが計画的に行われておらず、かつ所有権や管理方法が曖昧なものが多く存在し整理する必要がある。

(2) 来館者向けの冷暖房について

- ・旧味方村時代にはファンヒーターを用いて、部分的に暖房していたこともあるが、管理人も屋外の清掃活動をしていることも多く、安全管理ができないことから現時点では暖房設備を設けていない。
- ・同様の安全管理上の理由で、囲炉裏に火を入れることはしていない。

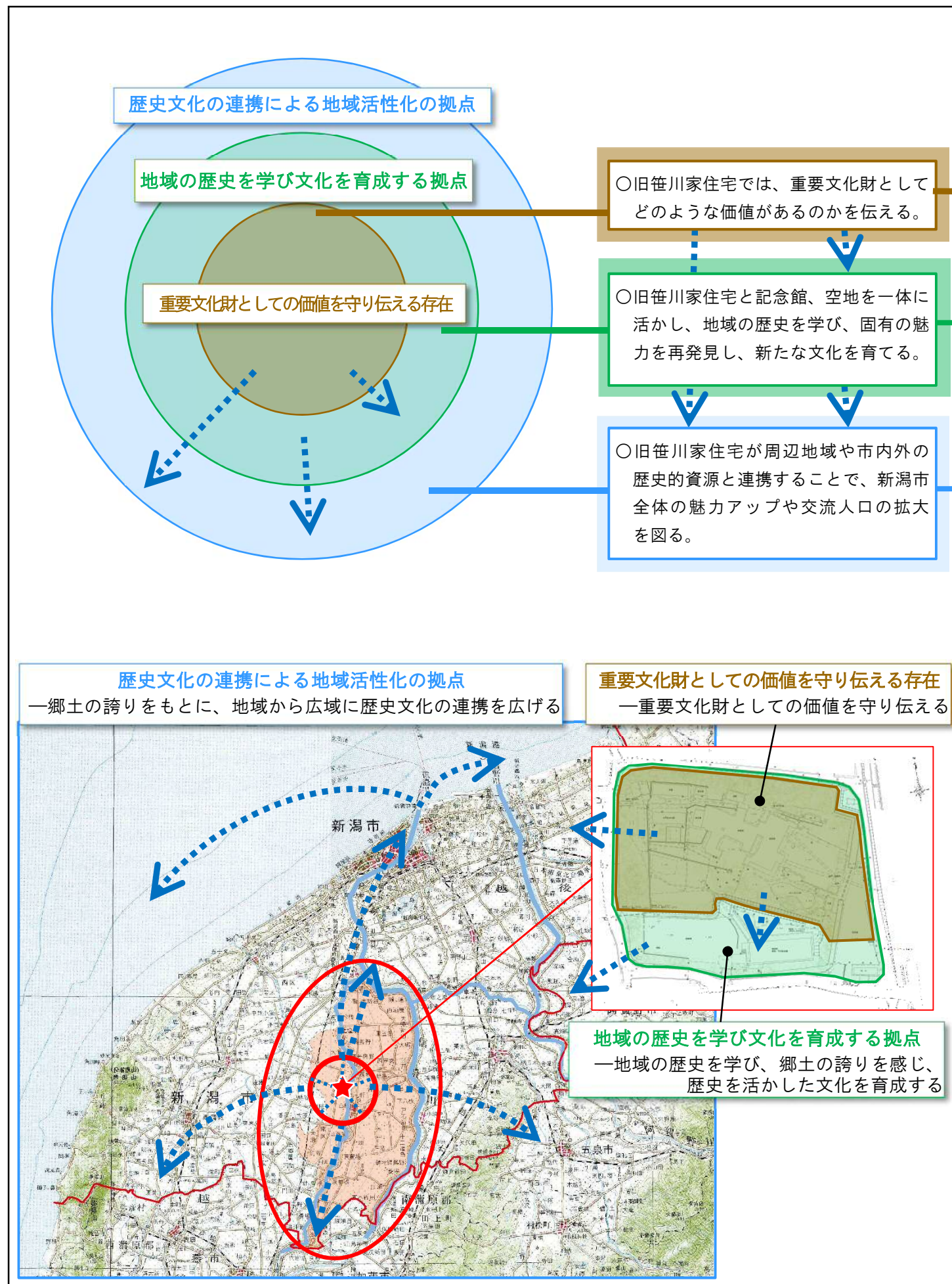
(3) 県内の重要文化財や市内の古民家文化財等との比較と問題点

- ・県内の重要文化財（建物・住宅）や市内の文化財等との比較では、旧笹川家住宅は大庄屋の役宅や平野部の河川沿いの屋敷構えなどの特徴が際立っていると考えられる。
- ・しかし、建物とともに庭園も見どころとなっている事例も多く、旧笹川家住宅は、建物に比べ庭園が見劣りするものとなっている。
- ・一方、公開活用としては市内の旧小澤家住宅や旧齋藤家別邸に見られるように、ボランティアガイドの配置や基本的な展示解説案内の整備の他、企画プログラムや市民の参加など運営面で積極的かつ多様な展開を行うことによって一定程度の入場者数を確保している点は参考にすべき点と考えられる。

(4) まちづくりとして関連する地域の歴史的資源の抽出と連携の可能性

- ・旧笹川家住宅がまちづくりの中で地域の歴史的資源と連携する可能性を検証するために、伝統文化としての白根・味方凧合戦、神楽、神楽舞、伝統技術としての瓢箪作り、農業関連としてのル レクチエの発祥、生活文化としての食のほか、地域の偉人・先人を抽出した。
- ・伝統文化は、昔から地域の中で育まれて来たものであり、歴史性としての連携ができる。
- ・しかし、旧笹川家住宅との直接的な関連性が薄い地域資源についても、歴史的な同時代性による関連付けなど、どのように連携できるのか、連携させていくのかは今後のテーマとなりうる。

IV 旧笹川家住宅のとらえ方と保存活用の方向性



1 重要文化財の価値を守り伝える存在としての保存活用の方向性

(1) 近世における大庄屋・庄屋制度を学び・伝える

- 笹川家の沿革、味方・白根地域の歴史
 - ・地域の歴史、大庄屋・庄屋の役割、笹川家が地域に果たした役割、沿革も併せて分かりやすく伝える。
- 身分制度と一体となった建築の特徴
 - ・表門や表座敷、塀、太い柱や大きな建具を使った表座敷、これらの建物と水路、庭園等が一体となった屋敷構えに現れている大庄屋・庄屋を務めた役宅としての特徴を分かりやすく伝える。
- 武士・役人をもてなす接客空間としての建築の特徴
 - ・役人の出張事務所兼宿泊所となっていた、接客空間としての特徴を分かりやすく伝える。
- 大庄屋・庄屋の執務空間としての建築の特徴
 - ・建物の特徴と併せて、地域の主要な出来事を分かりやすく伝える。

(2) 近世・近代における豪農の暮らしぶりを学び・伝える

- 雪国ならではの工夫を凝らした建築の特徴
 - ・明障子の欄間、降雪時にも作業可能な蔵前の土庇など、雪国ならではの工夫を分かりやすく伝える。
- 当時の技術・民俗文化を反映した建築の特徴、暮らしぶり
 - ・建物が建設・増改築された当時の技術・民俗文化を反映した建築の特徴を、分かりやすく伝える。

2 地域の歴史を学び、文化を創造する拠点としての保存活用の方向性

(1) 近世・近代における地域の生業や文化、伝統技術にふれ、学び伝える

- 舟運や農を中心とした地域の生業
 - ・米蔵にある民具から、地域の暮らしぶりや歴史を、学び・体験するのに有用な史料として活用する。
- 地域の食文化、伝統芸能
 - ・囲炉裏や竈、流しを使った郷土料理づくりや試食体験を通して郷土の暮らし、食文化を学ぶことが望ましい。

(2) 地域の偉人・先人を知り、郷土の誇りを引き継ぐ

- 小さな地域から偉大な先人たちを輩出
 - ・曾我・平澤記念館は両偉人の顕彰の記念館となっているが、新潟市の施設として、地域の歴史を、人物を通して知り学ぶ発展的な活用が望ましい。
- 先人たちの足跡を伝承
 - ・人物の伝承によって郷土の誇りを醸成する様々な活動ができる場とする。

(3) 郷土愛あふれる歴史ロマンを追求し地域を研究する

- 歴史ロマンによる郷土への関心の高まり
 - ・歴史ロマンによる郷土への関心の高まりを醸成しながら、地域の歴史研究を支援していくことが重要である。

(4) 郷土の歴史を学び、郷土の誇りを伝える大人と子どもを育てる

- 郷土愛を支える人づくり
 - ・旧笹川家住宅や曾我・平澤記念館は、郷土のミュージアムであると同様に、研究所でもあり、学校でもある。

3 歴史文化の連携による地域活性化の拠点としての保存活用の方向性

(1) 地元の宝物として地域のコミュニティ活動に根をおろす

- ・旧笹川家住宅の価値を守り伝えていくためには、まずは地元の地域住民が関心を持ち、地元の宝物と認めてもらうことが必要である。

(2) 歴史的視点から伝統文化、伝統技術、産業、人物等多様な連携をすすめる

- ・伝統文化、伝統技術や農業関連、偉人・先人などの地域資源を時代で切り取り、地域の同時代の様子を浮き彫りにする。

(3) 市内外の歴史文化資源と関連した歴史ストーリーを生み出す

- ・旧笹川家住宅は村上藩「四万石領」の大庄屋であった江戸時代から、蒸気船による舟運が盛んだった明治・大正時代など、時代背景をもとに市内外の歴史文化資源との関連を探り、歴史ストーリーを生み出す。

旧笹川家住宅の保存活用の展開イメージ-1

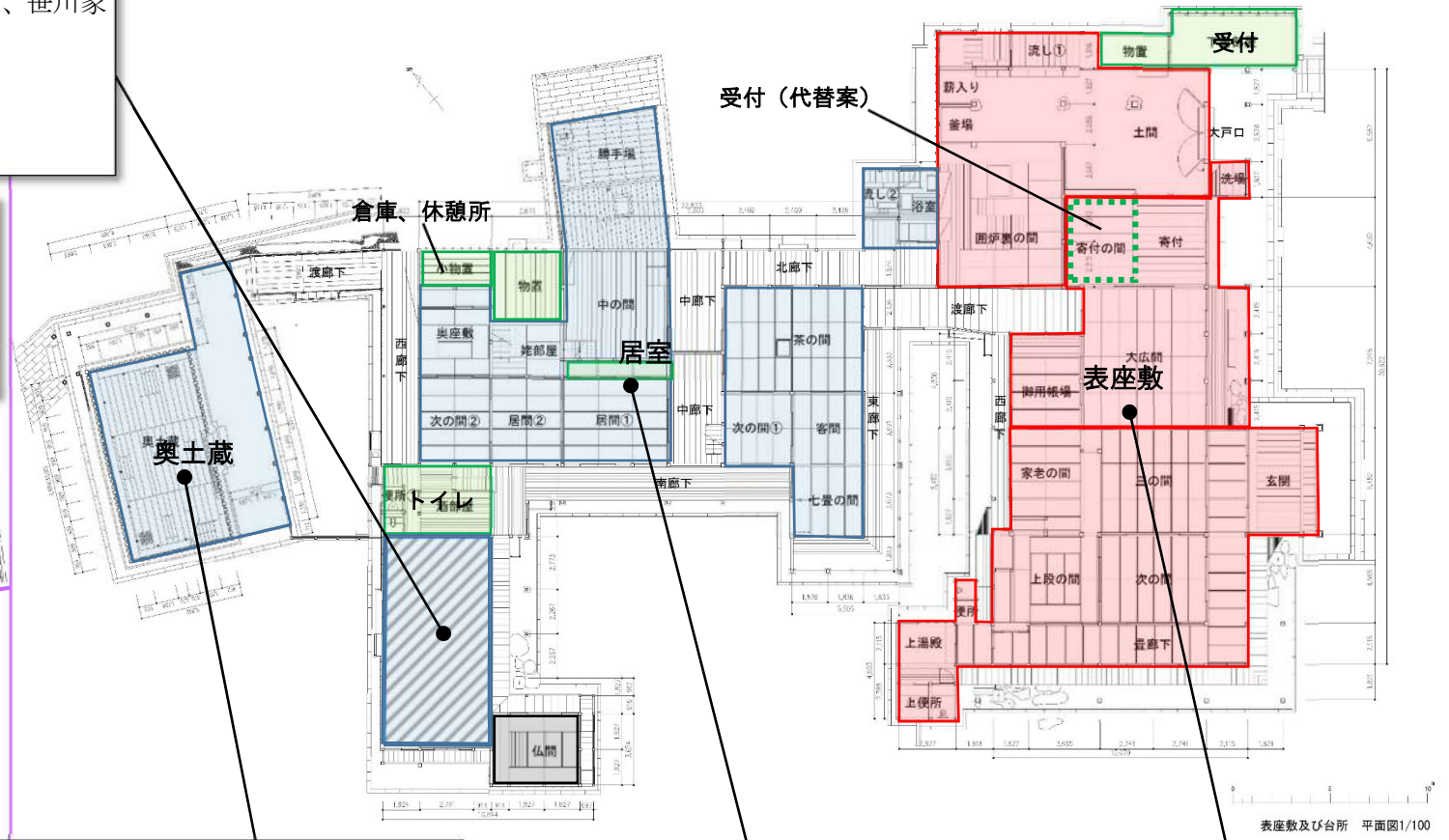
【地域の歴史を学び、文化を育てる拠点としての展開】

【味方・白根地域の近代の暮らし学び・体験ゾーン】
 ★ 地元住民から寄付された民具を展示・公開するゾーン
 ⇒原則として保全しつつ、活用に必要な設備（電気）を最低限整備する。
 ○ 舟運や農業を中心とした地域の生業を学ぶ
 ■ 史料展示（常設展示）

【郷土文化を楽しむ多目的活用ゾーン】
 ★ 地域サークルの活動スペースとして貸し出すゾーン
 ⇒貸出時以外は、自由に見学出来る状態にし、笹川家の暮らしぶりを学ぶ。
 ○ 郷土文化を楽しむ、新たな文化を育む
 ■ 生涯学習
 ■ 休憩・イベント時のバックヤード

【郷土文化を楽しむ多目的活用ゾーン】
 ★ 貸しスペースとして活用を図るゾーン
 ⇒原則として保全しつつ、活用に必要な設備（電気）を最低限整備する。
 ○ 郷土文化を楽しむ、新たな文化を育む
 ■ 蔵の空間を活かした貸しギャラリー

【重要文化財としての価値を守り伝える存在としての展開】



【笹川家の歴史学びゾーン】
 ★ 展示空間として活用を図るゾーン
 ⇒原則として保全しつつ、展示・資料保管機能に必要な設備（電気、警備等）を最低限整備する。
 ■ 史料の展示・保管

【下越地域の豪農の暮らし学び・体験ゾーン】
 ★ 公開を主としつつ、静かな活用も図るゾーン
 ⇒原則として保全しつつ、活用に必要な設備（電気・水回り）を最低限整備する。
 ○ 江戸時代に大庄屋・庄屋を務めた豪農の暮らし、郷土の暮らしを学ぶ
 ■ 役宅・新潟県内の大規模豪農住宅としての特徴
 ■ 近代の暮らしぶりの体験
 ■ 施設全体の休憩
 ■ 豪農の住まい・設えを活用した生涯学習・イベント時の活用

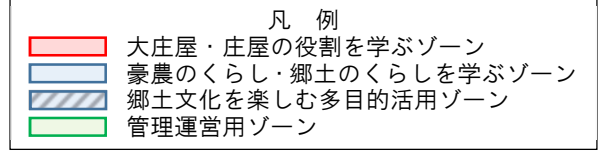
【大庄屋・表座敷ゾーン】
 ★ 公開を主とするゾーン
 ⇒現状のまま保全する。
 ○ 大庄屋・庄屋の役割を学ぶ
 ■ 笹川家の沿革
 ■ 大庄屋・庄屋の役割
 ■ 大庄屋・庄屋役宅としての特徴
 ○ 江戸時代に大庄屋・庄屋を務めた豪農の暮らし、郷土の暮らしを学ぶ
 ■ 新潟県内の大規模豪農住宅としての特徴

【休憩と交流ゾーン】
 ★ 旧笹川家住宅見学者の休憩とここを拠点に活動する人との交流スペースとして活用するゾーン
 ⇒ホールと一体のカフェコーナーとする。

【先人の伝承と文化育成ゾーン】
 ★ 先人たちを伝承し、新たな文化を育てるゾーン
 ⇒活動スペースとして活用する。
 ■ 講演会・実演会
 ■ ワークショップ
 ■ 企画展示

【郷土の偉人・先人の足跡学びゾーン】
 ★ 郷土が輩出した偉人・先人の足跡を学ぶゾーン
 ⇒現況施設を活かした、多様な企画展示を行う。
 ■ 常設展示と企画展示

【交流・サービスゾーン】
 ★ 交流スペースとして活用するゾーン
 ⇒さまざまな主体による、多様な交流ができるスペースとして活用する。
 ■ 郷土芸能の実演
 ■ 伝統行事のふれあい体験
 ■ ワークショップ
 ■ 郷土食等の提供や体験



旧笹川家住宅の保存活用の展開イメージ-2

【歴史文化の連携による地域活性化の拠点としての展開】

- 地元の宝物として地域のコミュニティ活動に根をおろす
- 展開イメージ

- 歴史的視点から伝統文化、伝統技術、産業、人物等多様な連携をすすめる
- 展開イメージ1（歴史文化資源、伝統文化資源との連携）

- 市内外の歴史文化資源と関連した歴史ストーリーを生み出す

- 展開イメージ1（笹川家に運ばれた物資から探る江戸の舟運ストーリー）

- 展開イメージ2（中ノロ川でつながる新潟湊等との歴史ストーリー）

郷土学習と子どもガイドの育成

吉江の観音堂

味方小学校

味方中学校

郷蔵所跡の紹介

子ども凧の見学

白根小学校

西白根神楽舞のガイド

中ノロ川の舟運をテーマとしたまち歩き

白根町在郷町の街並み

白根神社

白根の獅子舞

凧フェスティバル

しほね大凧と歴史の館

白根の獅子舞のガイド

コミュニティ活動と連携

笹川家と苧麻栽培や凧合戦のルーツの関連性を探る歴史ロマンを追求

歴史文化資源

伝統文化資源

連携

吉江の観音堂

旧笹川家住宅

曾我・平澤記念館

西白根神社

大凧合戦記念碑

白根大凧合戦

白根の獅子舞

角兵衛獅子

類産ナシ

満得寺

新坂田獅子舞

円通庵

木造阿弥陀如来立像

月島郷土物産資料室

「越後獅子の唄」歌碑

新潟市しほね大凧と歴史の館

凧フェスティバル in しほね

展開イメージ2（旧笹川家住宅から同時代の地域を訪ねる）

時代	西暦	旧笹川家住宅	伝統文化	伝統技術	農業関連	先人
安永	1602		角兵衛獅子			
江戸	1603		味方諏訪神社 茶會儀太々神楽 白根の獅子舞	越後しほね		六斎市
	1867		大凧合戦	白根伝承 月島手打鎌	類産ナシ	上杉謙斎
明治	1867					曾我量深 加藤清二郎 石山賢吉
	1911					平澤興 長井亮一 吉田静一郎
大正	1912					千野茂
	1925					廣川彰恩
昭和	1926					佐藤幸治 豊岡定夫 飛田龍雄
	1988					高宮
平成	1989					佐々木忠広
	2016					

日吉丸組の凧製作の見学

曾我量深とその生家のガイド

曾我量深生家

中ノロ川

中ノロ川と旧笹川家住宅等との関係ガイド

旧笹川家住宅

業友荘

曾我・平澤記念館

諏訪神社

笹川家ゆかりの神社のガイド

吉田家神楽の奉納見学

北前船 航路

村上領

村上

新潟湊

信濃川

阿賀野川

村松

長岡

旧笹川家住宅

目黒村湊 5.5-11

赤間川 5.21-24

浜田浦所島 5.12-14

5.16-20

近村浦 5.29-6.1

引田浦 (京都)

家村浦 6.3-13

九木浦 6.14-17

浦賀 6.19

江戸 6.21

小湊湊 4.27

新潟湊 4.26

各汽船会社・各路線船種

川汽船会社
家業社
安土社
安通社
白根汽船会社
西川汽船会社
亀田汽船会社
新潟汽船会社

小阿賀野・阿賀野川航路
濃尾川・新井川航路
新潟

展開イメージ3（四万石領大庄屋サミットによる歴史ストーリー）

四万石領大庄屋サミット

下川19組

下川津組(10) 三原(13) 寄屋(14)
立高(16) 新保(22) 上野(18)
上野津組(10) 日下(24) 小川(13)
鏡野(15) 牧野(16) 上保内(14)
下保内(13) 小見(15) 鹿(38)
中安(20) 三川(20)
桑島(13) 船(19)

加治6組

早刈(13) 大支(14) 森(17)
三日月(15) 川(20) 金山(8)

上川10組

五原(19) 保田(23) 三本(10)
藤(18) 下(28) 大(17)
川内(13) 三(31) 三(19)
山(20)

四万石領10組

三(15) 三(17) → 本(11)
安(14) 三(13) 打(19)
鈴(18) 味(8) 渡(30)
寺(23)

内蔵御代(享保13年)15万石領

※表中の()内の数字は、村数をあらわす。

典拠 『市資』317
【水原郷村明細帳集成】

旧小澤家住宅

蔵屋敷

旧笹川家住宅

北条家住宅、S57.6.11、江戸後

若林家住宅、S29.1.28、江戸後

渡辺家住宅、S29.3.20、江戸後

佐藤家住宅、H3.5.31、江戸後

旧笹川家住宅、S29.3.20、江戸後

五十萬家住宅、H3.5.31、江戸後

佐藤家住宅、S52.4.28、江戸中

旧黒家住宅、S49.2.5、江戸後

星名家住宅、H3.5.31、江戸末

山口家住宅、S52.1.28、江戸後

展開イメージ4（県内重要文化財でつながる江戸後期の歴史ストーリー）